

## 「蛍の光」は軍歌？そして領土

JJ1SXA/池

- 「一、蛍の光、窓の雪、書読む月日、重ねつつ、いつしか年も、すぎのとを、開けてぞ今朝は、別れ行く」
- 「二、止まるも行くも、限りとて、互に思う、千萬の、心の端を、一言に、幸くと許り、歌うなり」
- 「三、筑紫の極み、陸の奥、海山遠く、隔つとも、その真心は、隔て無く、一つに尽くせ、國の為」
- 「四、千島の奥も、沖縄も、八洲の内、護りなり、至らん國に、勲しく、努めよ我が背、恙無く」

これが全歌詞です、現在は 2 番までしか歌われないことがほとんどだが、本来は 4 番まである、3 番と 4 番は、遠く離れ離れになっても、それがたとえ辺境の地であろうとも、国のために心をひとつにして元気にそれぞれの役割を果たそう、というような内容のため、戦後はこの歌詞が敬遠され、また日本固有の領土である千島や沖縄が他国の占領下に置かれたという事情もあり、教育現場への指導などによって歌われなくなったらしい、「蛍の光、窓の雪」は、中国の故事「蛍雪の功」より来ていることはご存知のことと思いますが、現代の子供たちは、こんな情景は想像できないだろう、なにしろ蛍を見たことも無い子供が増えている、勉強の環境は整い過ぎるくらいだ。

「千島樺太交換条約・琉球処分」、「日清戦争による台湾割譲」、「日露戦争」等で領土が変わる度に歌詞も変わったという経緯がある、戦争が大きく影響することで、「蛍の光」は一部で軍歌だと言われる所以か？

現在、北方領土は、ロシアとの間でくすぶり続け、千島の奥までどころか、歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島の四島も日本の主権は及んでいない。

「筑紫の極み、陸の奥、海山遠く、隔つとも…」と九州の端や東北の奥までは、新幹線や高速道路も無い、この歌が作詞された時代には、はるか彼方であったのでしょ、更に彼方の「千島の奥も、沖縄も八洲の内…」と北方四島どころか千島列島が日本だったのだ、尖閣諸島を守るのは当然のこと、北方領土の復権と共に竹島を確実に早急に取り戻すべきである。

沖縄はアメリカから返還され、れっきとした日本であるが、尖閣諸島のみならず、沖縄本島をも中国が狙っている。

共産党は尖閣には領土問題があることを認めるべきだとふざけたことを言う、その他、琉球独立運動などとほざく沖縄左翼、沖縄独立は中国の属国になる運命だ、社民党議員の照屋寛徳も首謀者の一人、正に国賊だ、沖縄県民の総意だと思わないで欲しいとの意見が多数ある、左翼のこれらの妄言は徹底的に叩くべきだと思う。

(9,Nov,2013 記)